

町田はこんな町であってほしい！

～若者から高齢者まで世代を超えて話し合おう～

日時：2017.8.26（土） PM2：00～4：30

場所：町田市民文学館2F第会議室

参加人数 30名

1. あいさつ（藺田）

町田公共施設再編計画について、市民による請願と署名活動をはじめました。

楽しい町づくりのアイデアをだしあいましょう。

2. 再編計画策定検討委員会から（増山）

当委員会は、2016.11.8より活動し、先日第6回の会合。

再編計画への意見募集が、6/24～7/7の期間にあり、その結果報告。

市民43万人いるなかで、市の10か所での説明会に出席した人は、合計90名。

情報が行きわたらず、参加者のなかでも、広報で知った人34%、知り合い、チラシ、HPは少なく、若者への情報の浸透はあまりなかったといえる。知らない人が多すぎるとの意見あり。

3000人アンケートでは、1020件の回答があった。再編計画について、「あまりしらない」が、70～80%であった。再編、複合施設を作ることについては、維持管理費が苦しいこと、気軽に利用できることと、複合施設は便利じゃないかということで賛成意見が多かった。市民参加を求める意見、再編の具体案を示せという意見が目立った。委員会としては、市の(案)に、要望を出してほしい～たとえば、4つの視点について、必要性や整合性、建物とサービスは、分けられるのか、等々について。金がないから、〇〇をなくす、ではなく、もっと情報を出して合意形成していかなければならないと話し合った。

3. これまでの活動の説明 パワーポイントを使って（藺田）

町田市5か年計画により、生涯学習施設の存廃を2017年度に決定することがわかり、われわれの提言をしていこうと始まった。6月3日「ワールドカフェ」、6月24日ロールプレイと意見交換、7月29日「もの申す！」スピーチシャワーと3回の学習会を持ち、市の意見募集に「10の疑問」を提出。「市民生活に根ざした公共施設計画の策定をもとめる請願」「鶴川図書館の存続を求める請願」に取り組んでいる。

4. 若者と元若者が、語る。

① 雑学大学 佐野さん

雑学大学をやって7年になる。これまでの学習会に参加して、エゴになることはないか、考え、市のHPを見た。5か年計画17-21は、施政方針には出ていないのに動いてしまっている。市民全体の無関心の結果が、野津田に75億、鶴川駅前に30億、南町田駅前に30億円の巨額

の計画などが出ている問題になった。

自身は相模原市都市計画委員になっている。小委員会がたくさんでき、「先生」が、それぞれまとめたものが通ってしまう。ずるいやりかたである。

委員に若い人を入れること。(臨時の委員指名で)

市長に何がしたいのか、聞くこと。

市議に何がしたいのか、聞くこと。

② イラストレーター 本田さん

参加のきっかけは、東急ツインでの、町田の家並みの今昔をテーマにした絵を展示した時に、いろいろ調べ、土方園の土方さんから未来の会の話聞いたこと。

図書館は、自分にとって死活問題ともいえる存在であり、文学館は、数少ない発表の場である。どちらも若者はめっちゃ利用しており、この情報を拡散していかなければいけない。町田にいるメリットはなにか。先日高原書店で、前寺田市長が、文学館開設時遠藤周作展について書いてある書物を見つけた。2000年のことだ。

彼は「文化に強い町を作りたい」と言っている。これを、たった10年あまりで壊すのか？ 文化は、100年、200年後にも役に立つものであるはずだ。

③ 経営コンサルタント 松平さん 南町田在住

なぜ町田にすんでいるかという、当時の勤め先の丸の内と相模原の間で、小田急線沿いか田園都市線沿いかを考えて選択した。現在80歳台である。

今の問題は、プロモーターの不在にある。文学館の必要を言い続ける人がいない。

町田は、シルクロードの拠点から団地の町になり、今、財政難だという。施設の利用者はなぜ減ったのか、熟議が必要だ。私の後輩に平田たけおというなでしこジャパンを世に出した人物がいるが、彼はメディアを使った。

④ フリーライター 北村さん

乗り物酔いがあり、遠くにはあまり行かず主に町田で活動しているうちに関心や楽しみもひろがってきた。「たまらび」の市民ライターとして「まほろ座」などの取材をしたり、主に2つのNPO 団体でのボランティアなどを行っている。町田では、いつのまにかなくなったものいろいろある。カリヨン広場の仕掛け時計、珈琲の殿堂プリンス、鶴川図書館のある団地センター商店街の太陽の塔、等々。変わっていくことにも事情があるとかそのために頑張っている人がいたと知れたら、詳しくは分からなくても安心して町の変化を見守れるし納得できると思う。自分にとって「人に会う＝町に住む」ことだ。市の計画がどんなものなのかを知るためにも、かかわっていきいたい。」

⑤ 町田をテーマに本を出す 手塚さん

元福祉審議会委員長。八木重吉のファンで、文学館で八木重吉展をやった時は、他市の人から町田はうらやましいと言われた。文学館、そして学芸員の存在は大きい。自由民権資料館は、全国に3つしかない施設であり、とりわけ地元の豪農たちが興したものとしては唯一で、町田が誇れる最大の施設である。版画美術館も、全国に一つで、これは今再編に入っていないが、入場者

1万人ということがあからか。しかし、利用者数で存在を決める発想は違う。博物館もしかり。私は町田が大好きだ。文化施設のソフトを大切にしないといけないし、自然が豊かにあることとともに、プライドである。これから「里を楽しむ」町田の文化を書いた本を出す予定。55年に人口5万だった町田。かわっていくので若い人にバトンタッチしたい。文学館の前に、遠藤周作の彫像があり、にたらさんという人の作品である。(妻はオペラ歌手の東敦子さん) これも伝えたい。

⑥絵本作家 中垣ゆたかさん (展示室で展覧会開催中)

本田さんに誘われてきて、ずいぶんコアな場で驚いている。
文化はなくなったらなかなかできない。

5. Q&Aや、意見交換

○原町田中央通りは、変わるときどうだったか。(北村さん)

本田さんより

調べて話を聞いているとき、征屋のおばあちゃんに聞いたところ、人の流れが変わり、分断されたという。

原町田商店街に育った方より

駆け足通りはにぎやかで、町田銀座通りも活気があったが、商店はなくなり家業の金物屋もたたんだ。ハンズ、東急噴水広場ができた頃、少し活気ができたが、世代交代がうまくいかず、昔からやっている商店は数軒になった。地価が高いし。

○鶴川図書館に行ってみたら (鶴川地区在住の杉本さん)

昔、子育て中によく通っていた。今、夏休みで、1時間くらいの中に子供が10人位出入りしており、当たり前のように手近の本を取り出しては読んでいて、いいなあと思った。地域に愛されている姿伝えたい。写真を撮りたいと思ったが、禁止の張り紙があり、駄目だった。

鈴木さんより

団地の人は存続を願っている。

手嶋さんより

写真撮影は、正式に依頼すればできるところもある。

中央図書館は、地権者から図書館を作ってほしいと要望があり、十分に検討した結果、1989年6000平方メートルに建設された。

○文学館について (守谷さん 2006年オープン時館長)

今再任用で、地下保存庫で資料の整理をしている。1997年遠藤周作の資料を寄贈されたものをはじめ7万点位の資料がある。

Q. 小学生などに見学させることは?

A. カリキュラムに入れてほしいと要望しているが、実現していない。

新採用研修では、教員の見学はある。

学校へ出前授業(俳句)を、学校コーディネーターの声掛けで実現した。

学校の先生は忙しくなかなか難しい。

Q. 鶴川地区の説明会で、40年先まですべての施設の案があると聞いたが。

(佐野さん)

A. (増山)

策定検討委員会は、鉄道関係やいろいろなメンバーがいる。

現在は、ハード面だけでソフト面は考えていない。18-26計画は、17年3月までに決める。

文学館は、取り壊す時は複合施設として運営される計画。5つの小学校を3つに効率的に運営するという計画もある。いろんな委員会が存在し、よくわからないが、市民がいろいろ言ってほしい。サービスと施設を分けてはいけないと言っていきたい。

○元市議の池川さん

市民に知らせていくことが必要。

文学館は、設置目的をさだめた条例があり、それを守っていることを重視すべき。

策定委員会では、館が集会施設60%、展示40%になっているから、施設を分けろといっているが、間違いだ。

鶴川図書館は、団地の建て替えに伴いなくしていこうという話が前からあった。これも、設置目的を守り、最大限活用していくことだ。

都市核・副都市核の考え方は、地方創生の町田版みたいなものだが、市民は身近にあることが大切であり、問題だ。

○清原さん (野津田里山の会副代表)

施設が依拠している法律が大事。金がない、利用人数が少ないからやめようというのでは、全然ない。図書館なら、ちゃんと資料があるかが問題。公共施設というのは、民間ではできないからあるのである。

○佐野さん (雑学大学)

それぞれの施設の館長はどう考えているのか、4館に聞いてみた。やはり上から来ているから仕方がないという答えであった。抵抗すべきである。知らないままに決まってしまうことを無くさなくてはいけない。財政についても違う角度から考えられる専門家をさがしたい。

6. 次回予告 (守谷)

2つの請願は9月5日5:00までに提出するので、署名を。

議会の常任委員会で請願について議論が行われる。

「市民生活に根ざした・・・」は9月8日総務委員会10:00より。傍聴可。

「鶴川図書館・・・」は9月13日文教社会委員会 傍聴可。

○第5回学習会 シンポジウム こんな町田に暮らしたい!

—市民が創る町田の未来—

9月30日(土) ことばらんど

・対案を提出したい。スポーツも含め、地域団体に呼びかけたい。

○策定委員会の傍聴 (増山)

10月26日 13:00~15:00 市庁舎2-5会議室

11月13日

(記録 庄司)